

(様式1)

視 察 報 告 書

令和5年8月4日

鳥取市議会議長 西村 紳一郎 様

鳥取市議会議会運営委員会
委員長 魚崎 勇

本委員会は、下記により委員を派遣し、行政視察（調査）したので、その結果を報告します。

記

1 期 間	令和5年7月5日から令和5年7月7日まで
2 派 遣 先 及 び 視 察 (調 査) 内 容	茨城県取手市、千葉県柏市、神奈川県藤沢市 ○オンライン会議について ・導入経緯について ・運営の現状について ・今後の課題について ○ペーパーレス化の取組みについて
3 派 遣 委 員 の 氏 名	委 員 長 魚崎勇 副委員長 石田憲太郎 委 員 勝田鮮二、浅野博文、星見健蔵、長坂則翁、 岡田信俊、寺坂寛夫、上杉栄一 (西村紳一郎議長、吉野恭介副議長)
4 委 員 会 所 見	別添のとおり
5 参 加 者 所 見	別紙のとおり

(別添)

議会運営委員会行政視察（取手市・柏市・藤沢市）所見等

【取手市】

・取手市議会は早稲田大学マニフェスト研究所が毎年実施している「議会改革度調査」で2022年度に全国2位にランクインしている。本市もこの調査でのランクを上げる努力が必要と考える。

・全国市議会の中でも、議会改革が進んでいる取手市議会の取組みを目の当たりにして、議会（議員）全体でICT化の取組み姿勢が説明の中で強く感じた。「やってみよう」という気持ちと「議会愛」の精神がこれらの取組みの土台となっていると感じた。

・議場での電子表決システムには、初期投資と経年後のアップグレードに費用が必要となる。通常1千万円程度必要であり、取手市議会は更新時にタブレット表決へと変更し、更新費用をおさえている。また、タブレットのペーパーレスアプリをうまく活用し、しおり、インデックス、市民への対応等に活用している。今後、本市のタブレット活用に参考となった。

・取手市議会では、議会のオンライン化やペーパーレス化について先進的に取り組まれていた。本会議に続き委員会においても、ユーチューブでの字幕スーパー（音声認識システム）を取り入れていたが、やはり人名など間違いはあるものの、おおむね内容は表示されていた。ペーパーレス化については、議員もタブレット使用になれてきており、タブレットにペンで記入するなど、より進んできているとの事だった。

・取手市では予算書決算書が必要な場合は議員個人で別途自費購入をしている。徹底したペーパーレスへの切り替えでハードルは高いと感じたが、ゴール地点を設定しペーパーレスを実現する必要があると感じた。

・印象に残ったことは、導入時は自宅でのオンライン会議の環境整備を自費で行ったり、全員のズームアプリの確認も合わせて、非公式会議を何度もされるなど苦労されたとの話だった。また、タブレットとパソコンを併用しているが、紙の必要な時は自分で印刷しているとのことで、ペーパーレスも徹底されていると感じた。

・取手市ではタブレット端末の導入により「まずは、やってみよう」市民への貢献を掲げ、ペーパーレス化に取り組んでいるが、半年で約9万枚削減（議員）、事務室のコピー機で年1万5,000枚の削減、事務員の労力を130時間程度削減できているとのこと。どうしてもペーパーが必要な議員においては、自費で負担することになっており、少し問題ではと思った。

・私自身タブレット端末を自在にこなせているわけではないが、全て回数をこなすこと、慣れることが第一と感じた。せっかく最新のタブレット端末を貸与されている議員として、更なる活用が必要であり、可能だと強く感じた。

・常任委員会や会派の分散視察は、安価な旅費で効果の高い調査が出来る有効な方法の一つだと感じた。

・議会改革度2年連続全国1位だけあって、様々な取り組みを推進していて、特にオンライン化には感心した。議員との意見交換会については、市役所に来ることなくオンラインでつながる構築されていて、公民館・自宅・学校・各種団体から多くの意見集約をされ、将来につなげていく素晴らしい取り組みと感じた。この中のひとつでも本市議会に取り入れていけたらと強く感じた。

・議長をはじめとして改革意識が高く「やってみよう！」の精神には感銘を受けた。ICTに精通した取手市議会事務局長の存在は大きいと感じた。

【柏市】

・柏市議会では議会資料等のペーパーレス化の推進、議員間及び事務局の連絡の効率化、オンライン会議への環境を整備し、非常時でも議会機能を継続すること等を目的にタブレット端末が導入されている。本市においてオンラインによる委員会を開催する場合、オンラインでの出席委員の条件等について十分な議論が必要である。

・オンライン委員会開催にはメーカーのソフトがあり、初期投資と数年後のアップグレードに費用が必要になる。通常1千万円程度必要であるが、通常機器を使用し572万円に抑えている。また、タブレット携帯は重くて移動に不便なため、タブレット持ち帰りは無く、議会のみ使用している。そのため、ラインワークスをスマホへの導入が効果的である。議員のタブレット使用熟度差に対し個人対応はしていない。ペーパーレス化に関しては予算、決算資料のペーパーレス化は難しいようである。そうは言っても、ペーパーレス化は進めていくべきと考えられ、本市としてもタブレット機能を向上させていく必要がある。

・柏市では本会議場にプロジェクター及び150インチスクリーン、65インチモニターを設置した上、書画カメラも設置され補足資料の投影ができるようにされており、これもまた先進的に取り組まれていた。

・ペーパーレス化の取組みは、本議会とあまり大きな違いはないように感じた。

・柏市では令和3年8月に議会運営委員会において、初めてオンラインを開催されていた。令和4年4月には常任委員会も実施、必要に応じて会派代表者会議、議会広報委員会も実施されており、これから前向きに推進していくとの説明をうけた。本市議会としても、しっかり検討し必要な事項から取り入れるべきと思った。

・印象に残ったことは、タブレット端末使用料は全額公費で議会活動のみに限定されていること、オンライン委員会をインターネット中継したことにより機器等における大小のトラブルが毎回発生しているとのことだった。

・ペーパーレス化に関して、ペーパーに印刷した書類等を使用する場合とレスにする場合の費用面の説明もあった。ペーパーレスにしても驚くような費用の削減にはならないのが現状のようであるが、費用のことばかりでなく取り組むべきであると

感じた。本市と比較しながら説明を受けたが、本市の導入までに経験したことの説明も多くあり改めて本市の状況を確認できた。本市の現状としては引けをとっていないと感じることができた。今後は私個人を含め利用頻度を増やし、慣れることと改めて感じた。

- ・柏市でオンライン委員会時の問題となった回線の容量の問題は鳥取も該当すると思うが、実践してみないとわからない。余裕を持たせる準備はしておくべきと感じた。

- ・オンライン委員会の運用については、おおよそ取手市議会の運用方法と同様だと感じた。

- ・オンライン会議は重大な感染症のまん延を防止するため、大規模な災害発生したために委員の委員会の開催場所への参集が困難となった場合を想定し、システムを構築する必要性を感じた。

- ・ペーパーレス化の取り組みについては、年間 10 万枚程度の削減量となっており、紙の配布がないもの、紙とデータで配布しているもの、予算書・決算書などにおいては配布するなど、本市との取り組みと相違はなかった。

【藤沢市】

- ・藤沢市の ICT 化推進は平成 27 年 8 月と、鳥取市の平成 29 年 6 月と 2 年近く取り組み検討が早く、導入後の経験が多い。この経験の中で色々な課題を把握しており、鳥取市としても同様な課題が発生してくるものと考え。今後、先を見越した検討を進めるべきと感じた。また、そもそも論として、PC 活用について追加盛り込みデータ方式から単純な様式への検討も必要になってくるのではないかと感じる。

- ・オンライン委員会の検証として実施後のアンケートでは、音量や音質の向上、バッテリーの消耗が激しい、会議時間が長くなると通信が重くなりフリーズするなどの意見が出されており、本市がオンライン委員会を導入する場合、参考に値すると考える。

- ・藤沢市議会基本条例の理念である「開かれた議会・市民に親しまれる身近な議会」の取り組みとして、「カフェトークふじさわ」を毎年開催している。出された意見を踏まえて、意見・政策提言発表会の内容をもとに提言書をまとめられ、令和 5 年 3 月 27 日に市議会を代表して議長及び広報広聴委員会委員長から市長に提言書を提出しておられ、コロナ禍でのオンライン開催はとても素晴らしい取り組みと感じ、本市でも取り組みたいと思う。

- ・議会 ICT 化、ペーパーレス化への移行についても熱心に取り組まれており、本市と考え方が同じだと感じた。今後も藤沢市議会は市民利益に資する取り組みとすることを基本とされ、ICT 化を始め、より一層の議会改革に取り組まれており、素晴らしい議会運営に非常に参考となるものであった。

・本視察の調査項目については、コロナ禍からの取組ではなく、東日本大震災現地に学ばれたようである。大震災では多くのインフラが遮断され、思うように連絡が取りあえないもどかしさが出るのであり、タブレット端末等を使っての会議や連絡は大変役立ったようである。

・オンライン運用方法については、取手市、柏市とほぼ同様の方法である。藤沢市も資料閲覧用のタブレットもしくはPCの2台端末が必要との検証が示されていた。本市もオンライン会議の開催及びペーパーレス化を進めるにあたっては、委員会での資料閲覧用と作業用の端末使用が必要になってくると感じた。

・印象に残ったことは、表決の方法が出席委員の可否を一人ずつ挙手により確認していることや、オンライン委員会の会議録は速記と録音データをもとに業者に委託し、作成しているとのこと、また、実施後のアンケートにおける主な意見だった。オンライン委員会の全体の流れや具体的な内容を聞くことができ、本市の今後の取り組みがイメージできたと感じた。

・藤沢市では、オンライン会議の対象をコロナ感染症だけでなく、育児や介護者にも拡大する事を検討している。鳥取市もこうした認識で検討すべきだろう。オンラインのカフェトークはコロナでなくても大人数が参加できる有効な方法の一つだと感じた。

・議会運営委員会「ICT小委員会」委員長より、オンライン委員会の検討経過、開催形式、開催における手続き、開会までの準備、服務規律・秩序保持、オンライン委員会の実施状況及びその検証について説明を受け、本市で設置する際は、藤沢市のプロセスを参考に組みたい。

・オンライン会議について、私が気に留めたのは、服務規律・秩序保持の対応で「委員長は、秩序保持に関する措置として、回線の遮断により映像と音声の送受信を停止する措置を講じることができる」としたことである。藤沢市議会委員会条例第67条第2項「委員長は、前項の規定による命令に従わないときは、当日の委員会が終わるまで発言を禁止し、又は退場をさせることができる」とあり、オンライン会議では回線を遮断することにより、発言禁止、退場措置と理解するが、オンライン会議では回線遮断は退場措置と考える。このことについて質問したが、答弁された竹村雅夫副議長は、「大変重い質問で今後慎重に検討する必要がある」とのことだった。

・新型コロナウイルスが5類に移行され、オンライン会議の回数が減る中、忘れることが出てくるのではという思いもあり、将来的には育児や介護など職員が家庭から参加できるようなことも考えていきたいとのことだった。あくまでも議員としての職責はまっとうすべきであると思うし、会議は対面で行うことが基本だと考える。